

## 施策評価調書(27年度実績)

施策コード I-5-(5)

政策体系	施策名	健全な食生活と地域の食をはぐくむ食育の推進	所管部局名	生活環境部	長期総合計画頁	65
	政策名	安全・安心を実感できる暮らしの確立	関係部局名	生活環境部、福祉保健部、農林水産部、教育庁		

### 【Ⅰ. 主な取り組み】

取組No.	①	②	③
取組項目	健全な食生活を実現できる県民の育成	魅力あふれる「地域の食」づくり	食育の普及啓発

### 【Ⅱ. 目標指標】

指 標	関連する取組No.	基準値		27年度			31年度	36年度	目標達成度(%)					
		年度	基準値	目標値	実績値	達成度	目標値	目標値	25	50	75	100	125	
i 朝食を毎日食べる児童生徒の割合(小5)(%)	①	H26	90.0	90.5	89.8	99.2%	92.5	95.0						

### 【Ⅲ. 指標による評価】

評価	理 由 等	平均評価
i 概ね達成	栄養教諭を活用した食育推進事業の実施や給食だよりや学級通信等で保護者に呼びかけた結果、目標値を概ね達成した。	概ね達成

#### 【IV. 指標以外の観点からの評価】

取組 No.	指標以外の観点からの評価
①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食育人材バンク派遣事業の派遣申請が増加、講師登録も83個人・団体に増加し、食育が県民に浸透してきている。派遣の際、食事マナーについての取組を実施しており、食のマナーアップにも一定の効果があった。</li> <li>・栄養教諭や学校栄養職員が、給食時間をはじめ授業等の教育活動全体で児童生徒に対し、「朝食の重要性」や「バランスのよい食事」等の食育指導を行った。その他にも、給食試食会や親子料理教室の開催、朝食レシピの提案等、家庭への啓発活動を積極的に行うことで、食育に対する理解を深めることができた。</li> </ul>
②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校生等による新商品開発コンテストや地産地消川柳展の実施などにより、県民への地産地消の意思啓発が図られつつある。</li> </ul>
③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大勢の人たちで食事を楽しむイベント「ロングテーブル2015」を、大分、佐伯、豊後高田の3市で同時開催した。ライフスタイルの変化に伴い、大勢で囲む食事が減りつつあるなか、一緒に食べる楽しさやおいしさをロングテーブルで実感してもらえた。</li> </ul>

#### 【V. 施策を構成する主要事業】

取組 No.	事業名(27年度事業)	事業コスト(千円)	事務事業評価		主要な施策の成果掲載頁
			総合評価	28年度の方向性	
①②③	おおいたの食育推進事業	22,910	A	継続・見直し	82
②	地産地消運動活性化推進事業	13,143	A	終了	155

#### 【VI. 施策に対する意見・提言】

<p>○第2回大分県食育推進会議（H27.9）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養教諭や栄養士の方が参加する学校給食研修会に参加したことがあるが、学校では色々やっていて大変だと思うので、家庭でもしないとイケない。</li> </ul>	<p>○第3回大分県食育推進会議（H28.1）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食育推進条例の制定は、意見を県政にとりあげてもらって非常に素晴らしい機会であり、(委員の)知見を披露いただいて、くみ上げていただきたいと思う。</li> </ul>
--	--

#### 【VII. 総合評価と今後の施策展開について】

総合評価	施策展開の具体的内容
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養教諭を中心として、朝食摂取の必要性についての啓発を引き続き実施するとともに、児童生徒の肥満予防や食習慣の改善等に向けた取組を促進する。</li> <li>・県下で食育活動を実践している食育活動者の掘り起こしをさらに進め、食育人材バンクの講師を増やすことで、食育活動を一層広めていく。</li> <li>・進学や就職で生活スタイルが変わることが多い大学生や高校生に向け、健康づくりの第一歩として自炊力アップのための取組を、生活習慣病を発症し始める年代の働き盛りの世代に対し、社員食堂をツールとした事業を実施してきた。これまでの成果等をホームページ等に掲載するなどして情報発信をしていく。</li> <li>・食育推進条例(平成28年4月1日施行)の理念に基づき、関係機関・団体との連携を強化しながら、ロングテーブル等の食育イベントなどにより、食育の普及啓発を図っていく。</li> </ul>